

栃木県におけるがん情報の普及の取り組み

～行政の立場から～

平成23年11月11日(金)
 がん臨床研究推進事業研修会
 「地域における情報発信とがん患者支援」

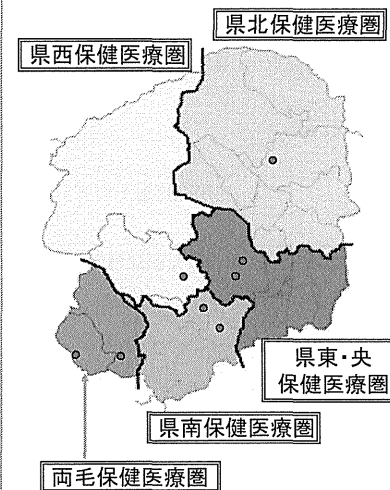


栃木県保健福祉部健康増進課
 渡辺 晃紀

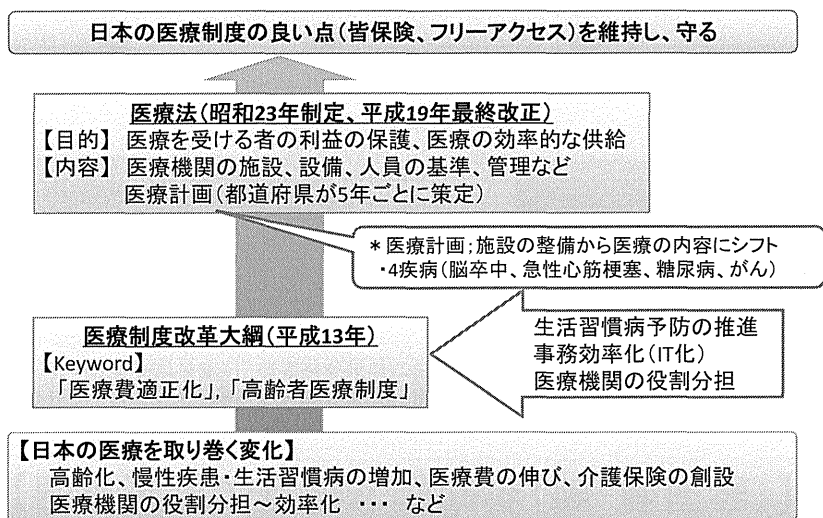
【栃木県について】

【栃木県の概要】

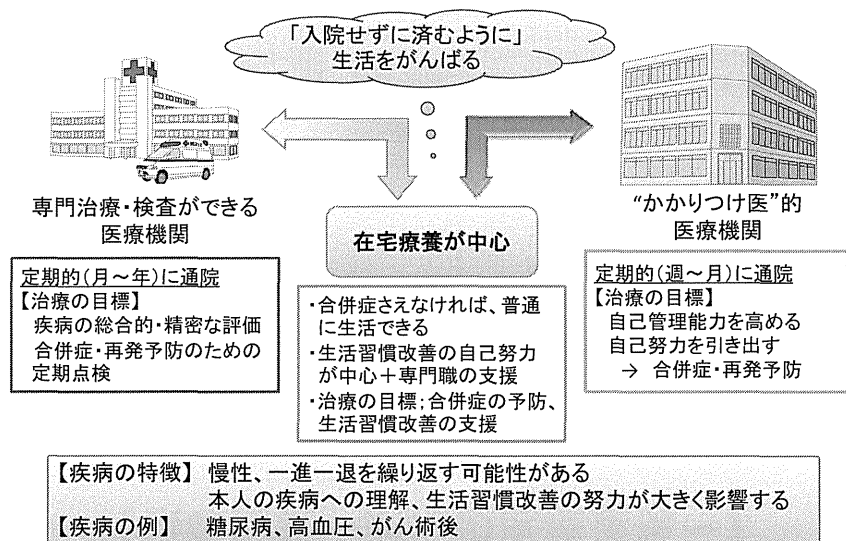
- ・人口 2,001,005人(H23.04)
- ・高齢化率 22.0%(H22.10)
- ・地域 14市12町, 6保健所, 5医療圏
- ・総死亡 19,712人(H22)
- ・がん死亡 5,444人(27.6%)(H22)
- ・医療 人口10万対医師数195.1人(H18)
 110病院, 1,461診療所(H22)
 6地域がん診療連携拠点病院
 2県がん診療連携拠点指定病院
- ・健康問題 脳血管疾患、心疾患、塩分摂取量、肥満
- ・キーワード 日光、那須、いちご、かんぴょう、雷、など



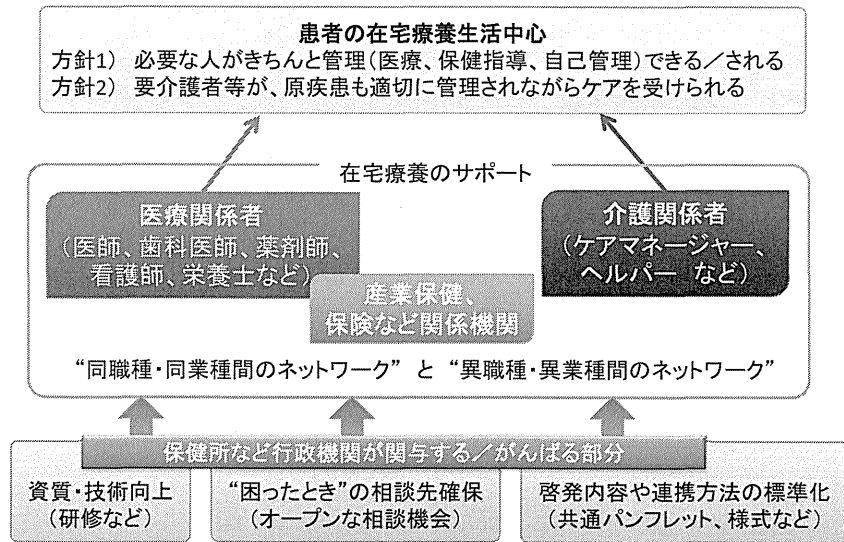
【県の対策～医療連携～】



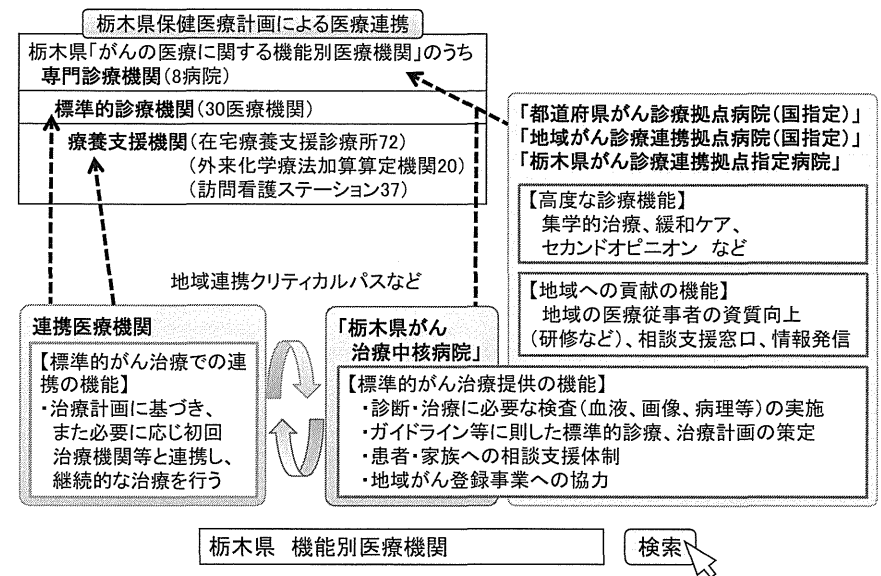
【医療連携のパターン「フロー型、循環型」】



【医療連携の目指す方向性(例:糖尿病)】

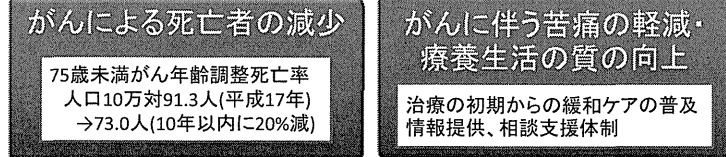


【県の対策～がんの医療連携～】

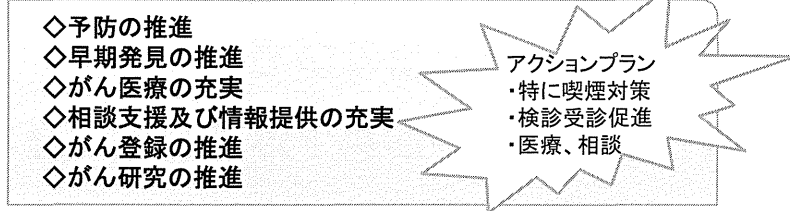


【県の対策～がん対策推進計画～】

【全体目標】



【個別目標】



【県の対策～がんの相談支援及び情報提供～】

相談支援センター	県東・央	県南	県西	県北	両毛
相談支援センター	2病院	2病院	1病院	1病院	2病院
国立がん研究センター 研修(1)修了の相談員数	15人	12人	2人	4人	15人

(出典:平成22年度がん診療連携拠点病院現況報告書) (H22.9.1)



【在宅療養を支える関係者・関係機関】



【まとめ】

1. 医療の質や療養生活の質の向上を目指し、医療連携などの面で、行政も医療に積極的に関与することが求められている。
2. 地域での医療連携推進のために、同業種間のネットワーク、異職種・異業種間のネットワーク構築が有効である。
3. 「患者必携」など医療・療養生活の質の向上のための情報は、ネットワーク構築のための研修題材や共有する情報としても活用していきたい。

栃木県におけるがん情報普及の取り組み

— 都道府県がん診療連携拠点病院として —



<http://www.tcc.pref.tochigi.lg.jp/>

栃木県立がんセンター 病院長 清水 秀昭
 同 相談支援センター 相談員(保健師) 長野 泰恵、佐山由美子
 所長 児玉 哲郎
 栃木県保健福祉部健康増進課 渡辺 晃紀

がん臨床研究推進事業 研修会 2011年11月11日

— 栃木県における取り組み —



対象: ①患者さん・ご家族 ② サポーター

我々のサポーターは行政(県庁担当部署)

◆平成22年度 取り組み

- ① 市民公開講座「がん「患者必携」—栃木の取り組み—」開催
2010年11月7日(日) 栃木県立がんセンター 講堂
- ② 患者サポーター職種への情報提供

◆平成23年度 計画

- ① 患者/医療者へのアンケート調査
- ② 患者サポーター職種への研修およびアンケート調査
- ③ 「患者必携:地域の療養情報 試作版(栃木)」改訂



「患者必携」普及 から支援へ

本来の目的は、
 配布ではなく、
 患者さんの知りたいことを明らかにして、
 地域で支える患者支援の輪を構築し、広げる!

がん患者との合い言葉
 “患者必携”

栃木県でも七位一体への動きを!

公開講座の記録媒体による情報普及

ホームページ



当センターHPをご参照ください。
<http://www.tcc.pref.tochigi.lg.jp/other/19.html>

DVDの配布



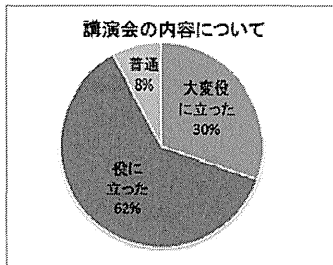
- ・健康福祉センター
- ・相談支援部会参加医療機関
などを通して患者・県民へ周知

アンケート調査結果

◎11/7がん患者支援公開講座のアンケート結果

1. 講演会の「内容」について (n=76)

大変役に立った	23
役に立った	47
普通	6
あまり役に立たなかった	0
全く役に立たなかった	0



6. 講演会の周知方法(複数選択あり)

ポスター	9	チラシ	26
新聞	10	広報	0
県のホームページ	0	がんセンターのホームページ	3
メール	3	テレビ	0
ラジオ	0	人から聞いた(先生、職場の上司等)	23
その他(学校等)	5		

健康福祉センターとの連携

<提案>

保健福祉部/健康増進課・保健福祉課
県保健福祉センター業務に相談支援部署

- がん相談窓口(保健師の対応)
- 地域ごと、講演会・研修会

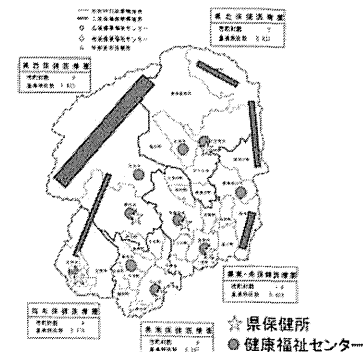
◇業務内容

- ・県/地域がん診療連携拠点病院の相談支援センター紹介
- ・がん「患者必携」パンフレット配布
- ・情報収集(「患者サロン」など)

◇研修・人材育成

- ・相談支援業務に関して、県がん診療連携拠点病院相談支援センターが主催する講習会・研修会へ参加

栃木県保健所・健康福祉センター



4疾病5事業の観点から がん情報の周知

健康福祉センターでの説明会 (1)

◇ 県南健康福祉センター研修 2010年 11月4日

—がん対策における「患者必携」の役割、地域での活用方法—

対象: 行政保健師 25名

訪問看護ステーション看護師・ケアマネ 12名

- 内容
1. がん対策における「患者必携」の役割
 2. 試作版でのアンケート結果概要
 3. がん患者支援における各職種の役割

◇ 県東健康福祉センター研修 2010年 12月9日

—介護サービスと医療機関等との連携—

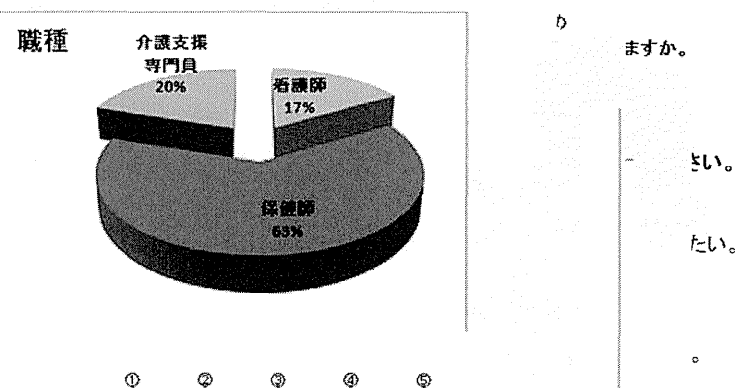
対象: ケアサービス関係職員研修

- 内容
1. がん対策における「患者必携」の役割
 2. がん患者の在宅緩和ケア
 3. がん患者の退院調整と連携

アンケート調査結果(県南)

地域保健福祉等関係職員研修会アンケート
回収 30名

1. 職種



健康福祉センターでの説明会 (2)

◇ 宇都宮市保健センター がんに関する講演会 2011年 9月10日

～予防から治療／がんになった時の対応(患者必携)について～

対象: 市民 94名

- 内容
1. 消化器がんを知ろう
 2. がん「患者必携」の説明／研究班作成ビデオ供覧

◇ 県西 健康福祉センター研修 2011年 9月22日

－介護サービスと医療機関等との連携－

対象: ケアサービス関係／地域医療機関／病院職員／行政 研修

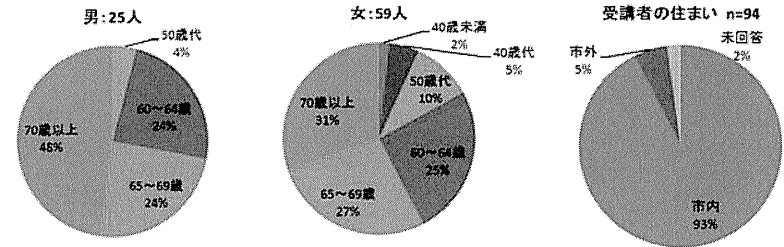
- 内容
1. 退院調整と連携
 2. がん対策における「患者必携」の役割
 3. グループワーク

◇ 栃木県薬剤師会 研修会 予定 2011年12月／2012年1月

がんに関する講演会

アンケート調査結果(1)

1. 受講者 性別／年齢、住まい

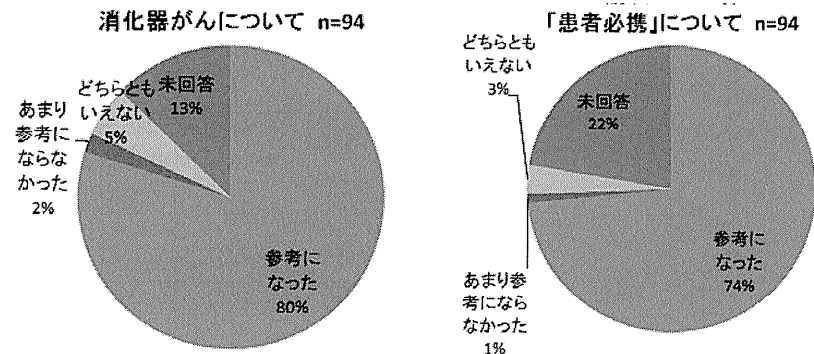


平成23年9月10日(土) 宇都宮市保健センター

がんに関する講演会

アンケート調査結果(4)

4. 講演会の内容

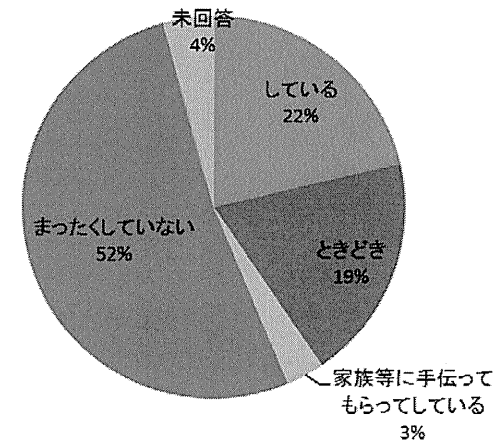


平成23年9月10日(土) 宇都宮市保健センター

がんに関する講演会

アンケート調査結果(6)

6. ふだん、インターネット・パソコンを利用しているか n=94

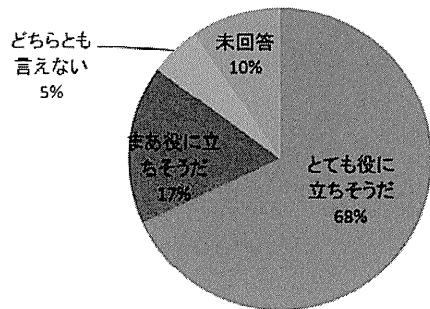
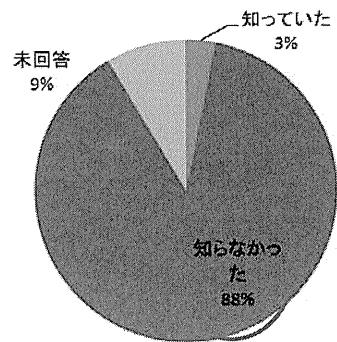


平成23年9月10日(土) 宇都宮市保健センター

アンケート調査結果(8) n=94

「患者必携」について知っていたか

「患者必携」は役に立ちそうか



平成23年9月10日(土) 宇都宮市保健センター

「患者必携」の講演を聞いて、自由意見

医療現場で、関係者でも、医療従事者と関わり合いが深まるようになって、自分自身も何かを学ぶことになる。その中で、医療現場で働く医療従事者の役割を学ぶ機会を得ることができ、サービス業であることを認識でき、人間関係の大切さを知ることができた。

自分自身も何かを学ぶことになる。その中で、医療現場で働く医療従事者の役割を学ぶ機会を得ることができ、サービス業であることを認識でき、人間関係の大切さを知ることができた。

自分自身も何かを学ぶことになる。その中で、医療現場で働く医療従事者の役割を学ぶ機会を得ることができ、サービス業であることを認識でき、人間関係の大切さを知ることができた。

- がんになったときの心構えを知るのに役立つ本
- ぜひ購入してがんを理解したい
- がんに向き合う姿勢など完全ではないが少しわかったような気がしました
- 早速求めよう
- がんになったら入手しよう
- 情報の入手の方法が理解できた
- 自分のことや家族の考え方やとらえ方が丁寧に記されているので大変こころ強い
- インターネットでダウンロードしてみたい
- がんに向き合うことの大切さを知り、役立った

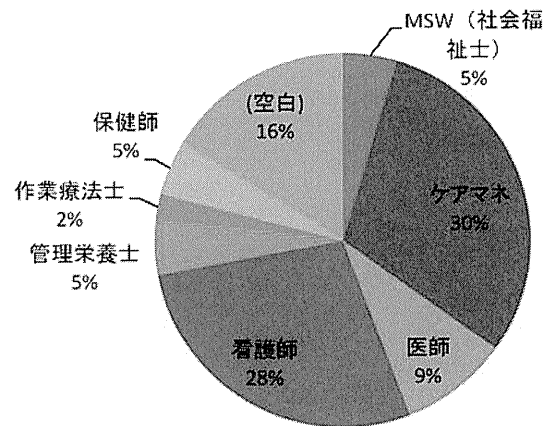
平成23年9月10日(土) 宇都宮市保健センター

◇ 県西 健康福祉センター研修会 2011年 9月22日



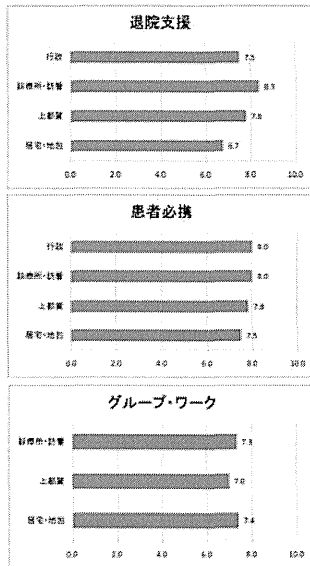
県西地区 研修 アンケート集計結果

参加者内訳 (n=43)



県西地区 研修評価／自由意見・研修希望

—10段階評価—

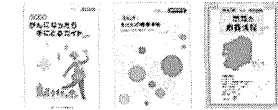


自由意見・研修希望

- 多職種の方が集合して、とてもよかった
- 連携を図れる顔見知りの方が地域にいると安心
- 地域の医療、介護資源と病院をいかに結びつけていくか
- 患者の選択された場所で、患者さんらしく生きるためにどのようにサポートしていったらいいのか
- 癌患者さんの実体験、思い、希望も聞けたら
- グリーフケアに関する研修
- がん患者さんに対して、地域からできる支援
- がん患者さんを連携モデルとして精神患者さんの連携の研修会もお願い

県西地区研修 アンケート調査（渡邊班）

ご参加の皆さまへ



「患者必携」アンケートのお願い

「患者必携」は患者さん・ご家族が がんの診療に必要な情報を収集し、整理し、あるいはわからないことをメモしたり、医療者と対話をするときに活用していただくように作成しているものです。お渡ししたのは、ご自宅で読んだり、書き留めたりするとか、あるいは、定期的に担当医の診察や、看護師・相談員へ面談や電話相談をされるときや、医療連携や療養介護での情報共有のツールとしてご活用いただくことを目指しています。この「患者必携」は、がんにかかった方の役に立つように全国的に普及できるか、検討段階です。アンケートは、さらに良い「患者必携」にする際の資料にさせていただきます。ご協力よろしくお願いいたします。

アンケート締切：●月●日(●)までに、同封の封筒に入れて返送してください。

研究実施機関：厚生労働科学研究費補助金 第3次対がん総合戦略事業
 「患者・家族・国民の視点に立った自立支援型がん情報の普及のあり方に関する研究」
 (研究代表者 渡邊 清高：国立がん研究センターがん対策情報センター)・
 研究協力者：清水 秀昭(栃木県立がんセンター 病院長)・

ご返信・問い合わせ先 栃木県立がんセンター 相談支援センター 相談員・保健師 長野 泰恵
 〒320-0834 栃木県宇都宮市陽南4-9-13 (直通電話) 028-658-6484

【ご参考】国立がん研究センターがん対策情報センター がん情報サービス (<http://ganjoho.jp/>)
 「患者必携」掲載ページ をご覧ください。
http://ganjoho.jp/public/qa_links/brochure/hikkei_index.html

*患者必携はPDFファイルとして閲覧、印刷できます。また、市販本として3月より書店等で販売しています。

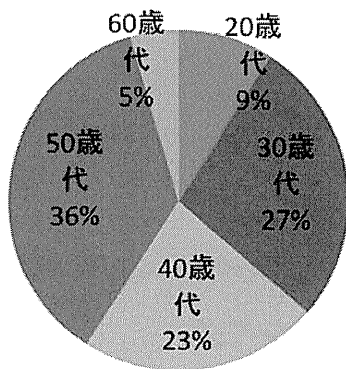
問1) あなたの年齢を教えてください。(あてはまるもの1つに○)

1. 20歳代

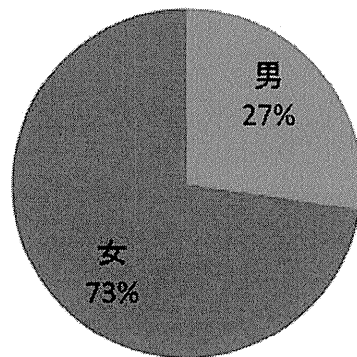
県西地区 研修 アンケート集計結果

回答者(n=22)

問1)年齢



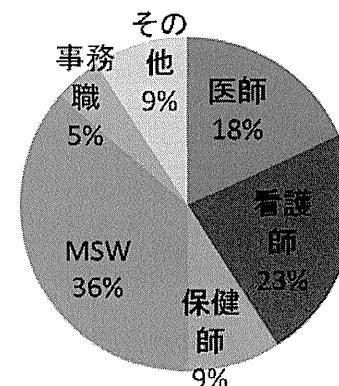
問2)性別



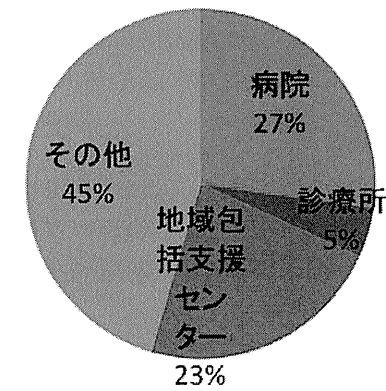
県西地区 研修 アンケート集計結果

回答者(n=22)

問3)属性



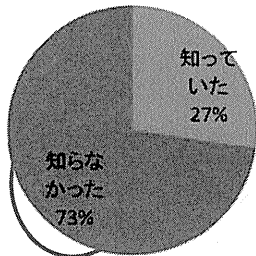
問4)勤務種別



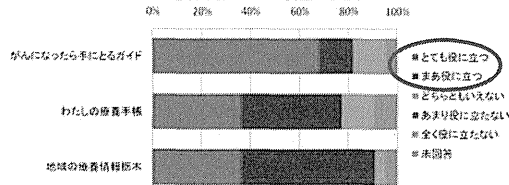
県西地区 研修 アンケート集計結果

回答者(n=22)

問5) 患者必携を知っていたか



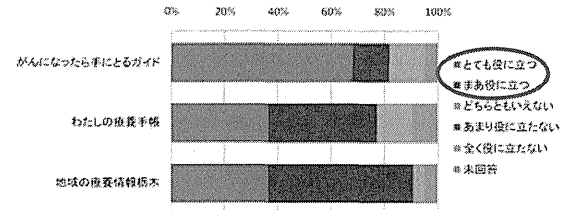
問6) 患者家族にとって役立つと思うか



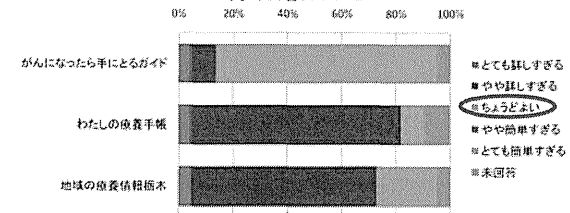
県西地区 研修 アンケート集計結果

回答者(n=22)

問6) 患者家族にとって役立つと思うか



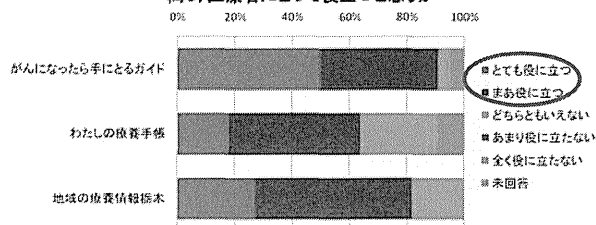
問7) 内容について



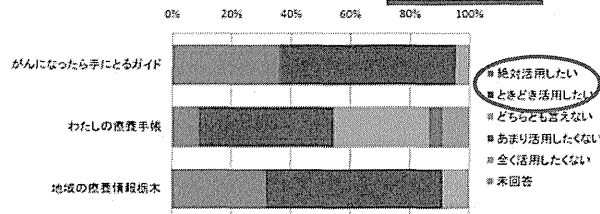
県西地区 研修 アンケート集計結果

回答者(n=22)

問8) 医療者にとって役立つと思うか



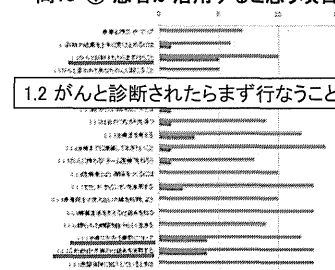
問9) 患者・家族に患者必携に含まれる情報について、説明の時に活用したいか



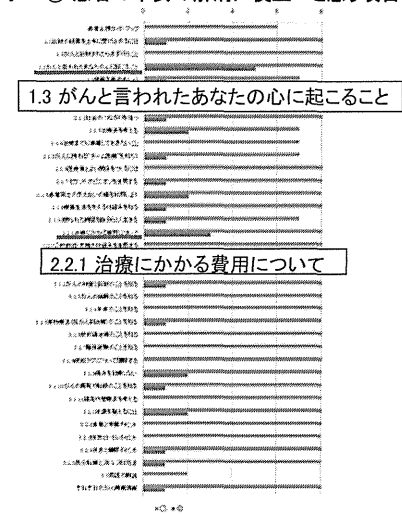
県西地区 研修 アンケート集計結果

回答者(n=22)

問10-① 患者が活用すると思う項目



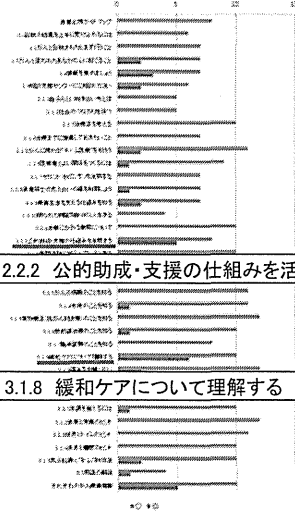
問10-② 患者の不安の解消に役立つと思う項目



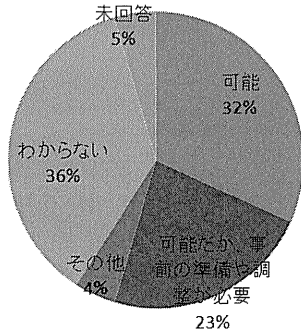
県西地区 研修 アンケート集計 結果

回答者(n=22)

問10-③ 医療者として活用すると思う項目



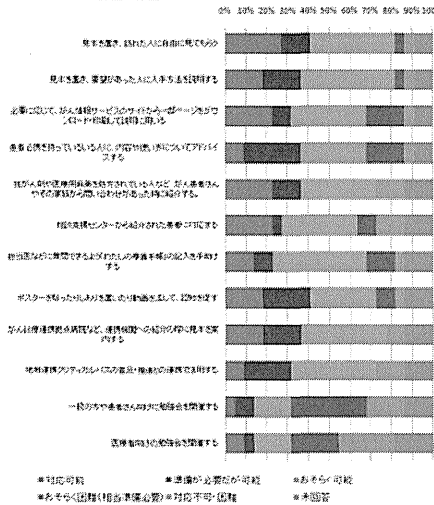
問12) 患者必携の紹介、情報提供は可能か



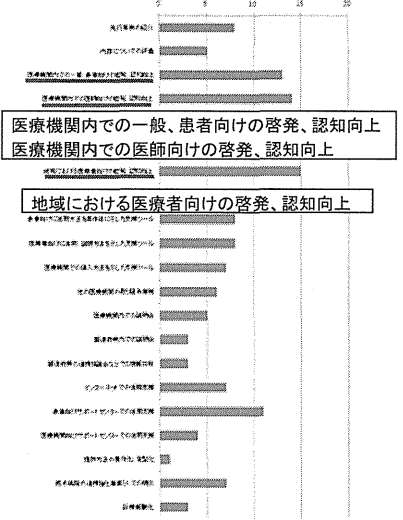
県西地区 研修 アンケート集計 結果

回答者(n=22)

問13 「患者必携」の配布・活用にあたって、対応可能な取り組みについて



問14 効果的だと思われる取り組みについて



県西地区研修 記載欄

問11)

それぞれの冊子に加えた方がよいと思う情報がありましたらお書き下さい。

a) がんになったら手にとるガイド

具体的な調理例、独居の方の対応(特に生涯孤独の方)。意味合いは変わってくると思いますが困っています。全てをご本人がしなくてはならないので・・・。

乳がん・子宮がん(特に)リンパ浮腫に関すること、ケアについて。頭頸部がんの美容面に関すること。女性の患者さん目線での記載がほしかった。

b) わたしの療養手帳

治療と体調の記録は、もっとページを増やして欲しい。

c) 地域の療養情報

県内の患者会・患者サロンの情報、情報の年月日(いつ現在か)の明記、税務署・ハローワークの連絡先

試作版のためですが、連携拠点病院に上都賀が抜けているようです。

栃木県内の患者会情報

県西地区研修 記載欄

問12)

患者必携を紹介、情報について伝えることは可能か

業務上、直接がん患者への支援に携わっていないため、患者への直接の情報提供は困難だが、支援関係者を通して情報提供することは可能だと思われる。

問15) 取り組みの提案

がん診療連携拠点病院に通院中のがん患者を対象に試験配布し活用状況等モニタリング調査の実施(1病院20名程度)

圏域または市単位でのがん必携普及目的の研修会開催(一般市民向けと地域支援関係者向け→地域医療連携のツールとして紹介)

ある部位の癌が発症したとして、このガイドは、幅広く書いてあるので他への転移等不安が増大するのでは・・・。それにただ渡すだけでなくその後のフォローが必要。

配布されても手にとった人が理解できるものを

「地域の療養情報」比較

栃木 (26)	愛媛 (24)	茨城 (22)	沖縄 (82)	広島 (50)	大阪 (51)
拠点病院／ 相談支援センター		拠点病院／ 相談支援センター	拠点病院／ 相談支援センター	拠点病院／ 相談支援センター	拠点病院／ 相談支援センター
制度(助成/貸付/手当)	制度(助成/貸付/手当)	各拠点病院の情報 (相談支援センター、 セカンドオピニオン)	緩和ケア		
相談(在宅・介護・障害)			患者会	制度(助成/貸付/手当)	
公共施設	公共施設			患者会	制度(助成/貸付/手当)
			相談(在宅・介護・障害)	公共施設	緩和ケア
拠点病院／相談支援センター					セカンドオピニオン
緩和ケア					相談(在宅・介護・障害)
患者会			制度(助成/貸付/手当)		
セカンドオピニオン				公共施設	
相談(在宅・介護・障害)					
制度(助成/貸付/手当)					
公共施設					
その他					

「地域の療養情報：栃木版」の見直しと改訂版作成

栃木県がん診療連絡協議会相談支援部会 2011年10月6日

メンバー： 栃木県がん診療連絡協議会参加施設 15病院 相談員 15名
オブザーバー： 者家族会、支援関係団体の代表 4名

○地域療養情報の活用の位置づけ

- ・患者家族と支援者が一緒にみて確認できるツールとして活用
- ・冊子を渡されただけでの情報提供では、患者家族は動けない
- ・支援者と患者家族との相談を経た上で、その人に応じた必要な情報提供、関係機関へ連絡により具体的な支援につなげる
- ・相談支援センターにつながるためのツールとして活用

○内容の見直し

- ・協議会参加施設 相談部門の詳細な情報を掲載
- ・身近な地域での相談ができることを周知

○掲載情報更新及び作成

- ・A5 2色 30ページ × 4000部 (1冊30円)で予算確保
- ・再作成の要望があれば、県として予算計上
- ・事務局で地域療養情報(案)を作成、1月下旬 第2回の部会を開催し確定
- ・(案)作成の過程において部会委員にもメール等で確認依頼

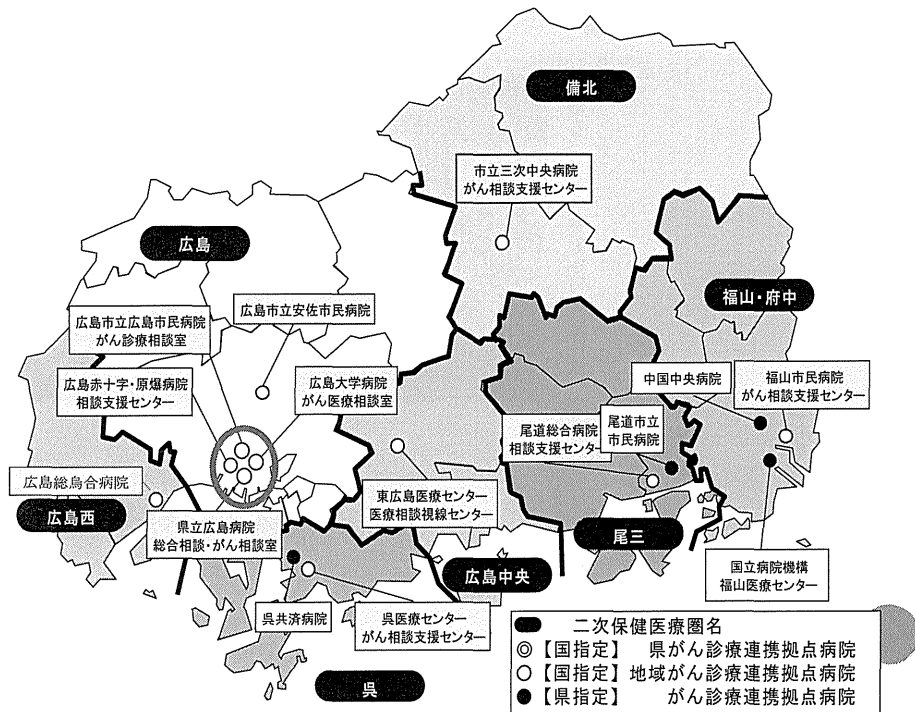
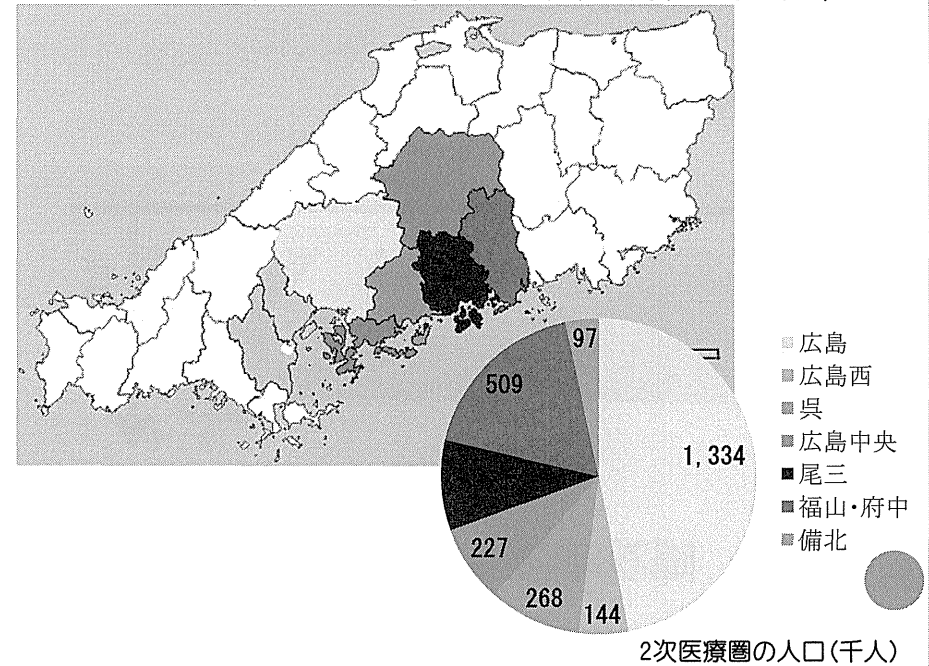
がん患者さんのための 「地域の療養情報」サポートブック作成の取り組み

～がん臨床研究事業(がん臨床地域必携班)研究分担者の立場から～

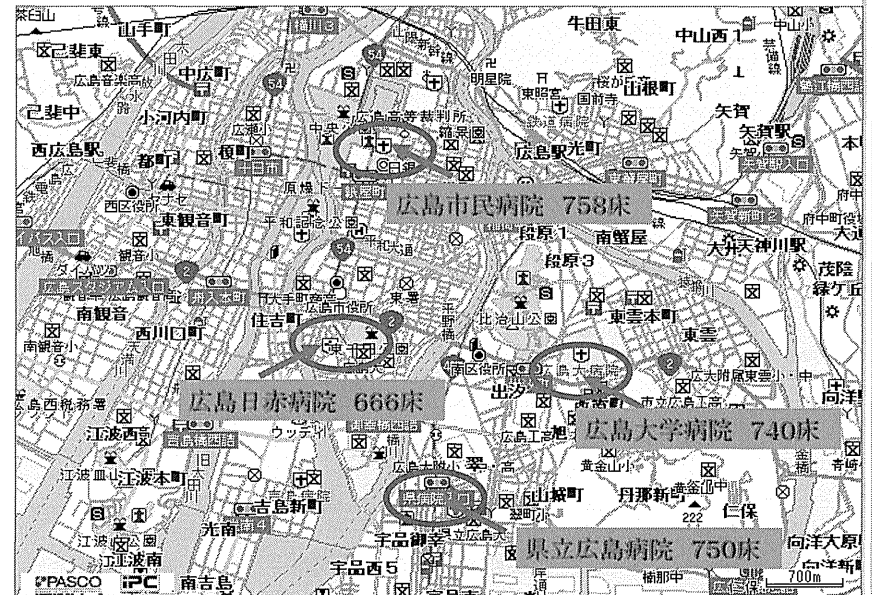


県立広島病院 臨床腫瘍科
篠崎 勝則

広島県284.2万人の2次医療圏と分布



広島県ならびに広島・地域がん診療連携拠点病院 (広島医療圏・広島中心部)



臨床腫瘍科開設式 平成18(2006)年7月20日



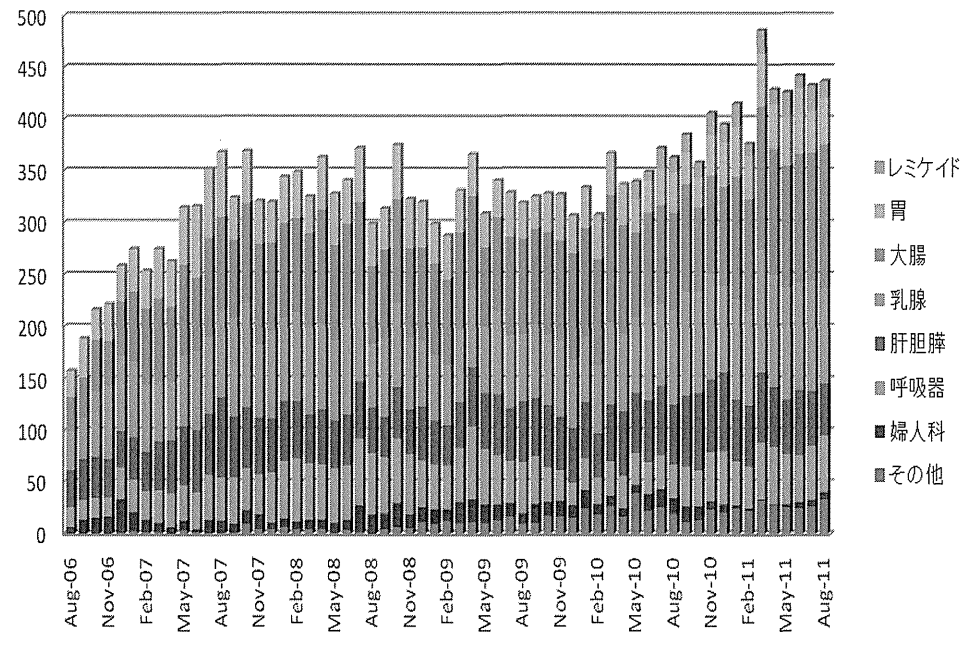
新聞記事の抜粋を掲載しながら、臨床腫瘍科の設備を紹介する様子を掲載（行、広島市南区の国立広島大学病院）

県立広島病院
開院初年度で
年間患者350人見込む
がん化学療法専門科

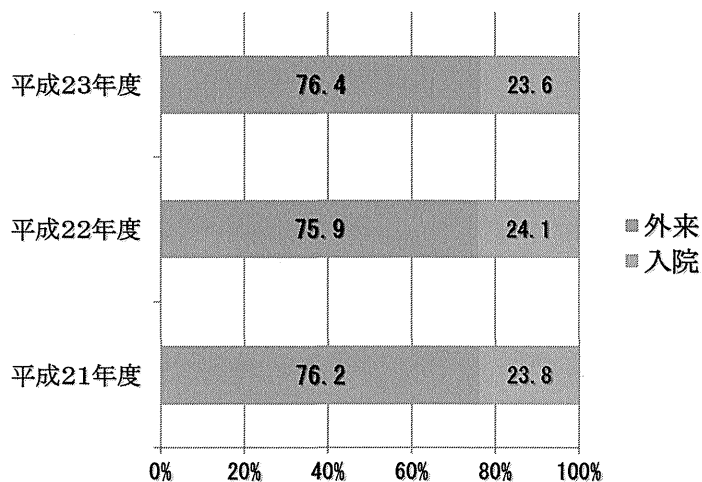
研修など国立センターと協定

読売新聞2006年7月21日版

外来化学療法実施件数(月別)

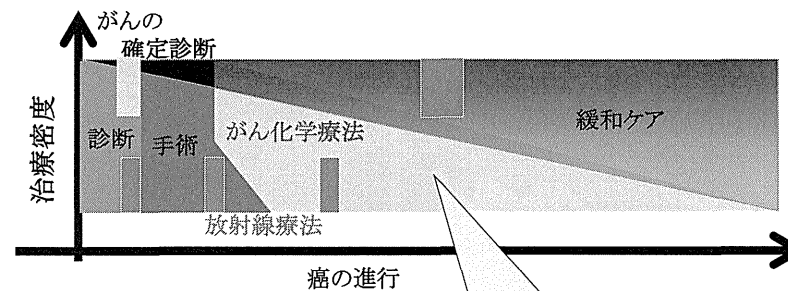


当院での化学療法の実施状況



外来での化学療法が75%以上を占めている。

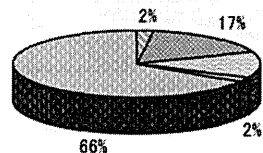
腫瘍内科医の果たす役割



在宅での療養の質の維持向上のためには、十分なケアを提供しながら化学療法や放射線療法を実施できる体制作りが重要。

(問11) 県では、平成21年4月にがん情報サポートサイト「広島がんネット」を開設 (<http://www.pref.hiroshima.lg.jp/gan-net/>) し、県内のがんに関するイベント情報や拠点病院の診療情報等をホームページで公表していますが、がん患者・家族の方が必要とする情報が概ね掲載されていると思いますか？

問11 県のがん情報ホームページの掲載情報について

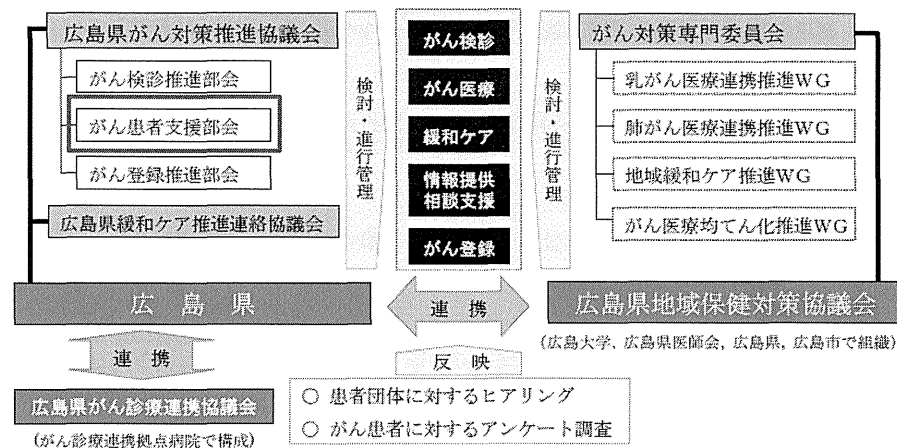


- 掲載されている
- ある程度掲載されている
- あまり掲載されていない
- 掲載されていない
- よく分からない

掲載されている	6
ある程度掲載されている	46
あまり掲載されていない	34
掲載されていない	6
よく分からない	178
回答総数	270

「よく分からない」という回答が全体の6割以上となっており、「掲載されている」、あるいは「ある程度掲載されている」との回答は、全体の2割(19%)にとどまりました。「よく分からない」理由としては、「ホームページが使える環境にない」、「高齢者には難しい」、「新聞等で知る位で、よく広報されてない」といった意見が多数を占めました。「広島がんネット」は、幅広いがん情報を入手するための手段として、今後も掲載情報の充実や、より一層の広報が求められています。

《「広島県がん対策推進計画」アクションプランの検討・進捗管理体制(平成21年10月現在)》



当院での薬薬連携に向けた取り組み

2010年10月に保険薬局を対象にアンケートを行い、保険薬局における現状と問題点について調査実施。

▶保険薬局での経口抗がん剤の調剤・服薬指導の現状

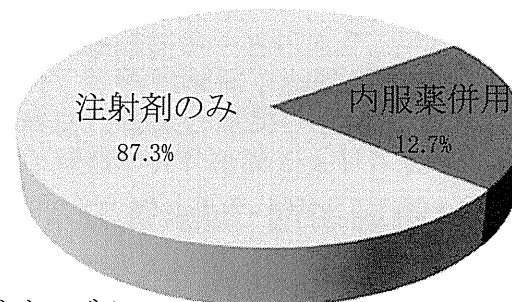
- ・80%の保険薬局では経口抗がん剤の服薬指導が実施されている
- ・17%の保険薬局では経口抗がん剤について説明を行っていないことが多い
- ・68%の保険薬局で経口抗がん剤の調剤・服薬指導時に困った経験がある。

▶問題点

- ・告知の有無が不明
- ・病院でどのように説明されているかがわからない
- ・レジメン内容が分からない
- ・用法・用量が添付文書と異なる

経口抗がん剤併用レジメンの使用状況

県立広島病院 平成23年度(4月～6月)



経口抗がん剤併用の化学療法が10%以上を占めている。

主なレジメン

ゼローダ® 併用
 +アバスタチン®療法
 +シスプラチン療法
 +エルプラット®療法

ティーエスワン® 併用
 +ジェムザール®療法
 +タキソテール®療法
 +カルボプラチン療法
 +トポテシ®療法
 +シスプラチン療法

病院、保険薬局が求める情報

日本薬剤師会が平成17年に行った調査によると

保険薬局が医療機関から得たいと思っている情報

- ①病名(処方意図も含む) 90.4%
- ②病名告知の有無 83.1%
- ③指導時の留意点 68.0%
- ④アレルギー歴・副作用歴 67.7%
- ⑤調剤上の工夫 60.4%

病院薬剤師が保険薬局から得たいと思っている情報

- ①アレルギー歴・副作用歴 76.8%
- ②患者の服薬記録 74.2%
- ③調剤上の工夫 61.1%
- ④指導時の留意点 57.3%
- ⑤一般用医薬品等の使用状況 56.8%

情報共有ツール

病院と保険薬局の情報共有を行うために、「療養手帳」を活用

Contents:

- ①病名、告知の有無、医師が患者へどのように説明しているか
分かる文書 → 化学療法同意書のコピー
- ②治療スケジュール
- ③支持療法薬の説明書
- ④病院と保険薬局の情報提供書(施設間連絡書)

グリベック内服療法説明・同意書

山●●子様 (10●●●●●)

1. 病名
この度、下血・貧血の主治にて検査を行い、最終的に切除不可能な多発性肝転移と診断(小腸の末期) GIST(ジスト)消化管間質腫瘍)と診断されました。診断 GIST に関しては、下血を伴っていたこともあり、手術の手術で切除しています。今後切除不可能な肝転移に対し、姑息を目的とした抗がん剤治療が必要と考えられます。

2. 治療方法
グリベックという内服薬を毎日4錠(400mg)内服します。効果が認められる(腫瘍が増えないう)限り、継続します。効果判定のために、定期的に(2〜3ヶ月毎)CT検査を行うこととなります。

3. 治療法と目的
一般病 緩和・症状緩和
切除不能 GIST においては、これまでの経過観察の結果によれば、無治療では平均生存期間は数ヶ月と報告されています。グリベック治療により平均生存期間は40〜57ヶ月と報告され、その長効効果が証明されています。

4. 予想される副作用
消化器症状: 吐き気、嘔吐、下痢など
浮腫(むくみ)や体重増加
血液毒性: 白血球減少、血小板減少、貧血、肝機能障害など
皮膚症状: 発疹、湿疹、皮膚乾燥症、痒痒症、紅斑など
筋肉痛、骨痛、関節痛、筋力低下など

5. その他の治療法について
グリベックが効かなくなれば、サステントという内服薬に切り替えることを検討していきます。

6. 追加説明書 あり
『消化管間質腫瘍(GIST)〜グリベックを服用される方へ』
平成22年09月10日 県立広島病院 臨床腫瘍科 担当医 種崎 勝則

上記の説明を受け、その内容を理解しました。
また、同意後、いつでもその同意が撤回できることを確認しました。

平成22年9月10日

患者氏名 ●●●●●

(患者との結核) ●●●●●

支持療法薬の説明(嘔気予防)

吐き気止めるお薬 (AC-AI+AC-IC+H2阻害薬)

① 吐き気止めるお薬 (AC-AI+AC-IC+H2阻害薬)

② 吐き気止めるお薬 (AC-AI+AC-IC+H2阻害薬)

③ 吐き気止めるお薬 (AC-AI+AC-IC+H2阻害薬)

支持療法薬の説明(発熱時)

38度以上発熱した時に飲むお薬 (①②③④)

① ショコリン錠 200mg (経口薬)

② クラビット錠 250mg (経口薬)

③ ④

支持療法薬の説明(嘔気時)

吐き気止めるお薬 (経口)

① プロモペリドン錠 0.5錠 (15分後服用)

② メロキシカム錠 0.5錠 (15分後服用)

③ ツツアックス錠 0.5錠 (15分後服用)

支持療法薬の説明(皮疹予防)

①

②

③

④

施設間連絡書

施設間情報連絡書(案) 保険薬局→県立広島病院				施設間情報連絡書(案) 県立広島病院→保険薬局			
日付	記入者	確認者		日付	記入者	確認者	
コンプライアンス <input type="checkbox"/> 済 <input type="checkbox"/> 不済	TS-1残数 <input type="checkbox"/> 25mg <input type="checkbox"/> 20mg <input type="checkbox"/> 空			依頼事項 <input type="checkbox"/> 服薬状況の確認 <input type="checkbox"/> 服薬の確認 <input type="checkbox"/> 服薬スケジュールの確認			
服用開始日: 月 日 朝・夕	支持療法薬残数 <input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> 薬処方(薬品):			連絡事項 <input type="checkbox"/> TS-1用量変更(増量 減量)			
他科併用薬 <input type="checkbox"/> 無し <input type="checkbox"/> あり(ロフルファリン <input type="checkbox"/> フェニトイン <input type="checkbox"/> その他)	保険薬局名						
保険薬局での確認事項 <ul style="list-style-type: none"> ・コンプライアンス ・服用開始日・服用期間 ・支持療法の残数 ・他科併用薬 連絡事項に関して自由記載				病院からの依頼事項 <ul style="list-style-type: none"> ・服薬状況 ・残数 ・服薬スケジュールの確認 ・他科併用薬 連絡事項 TS-1の用量変更 その他、自由記載			

今年度の展開

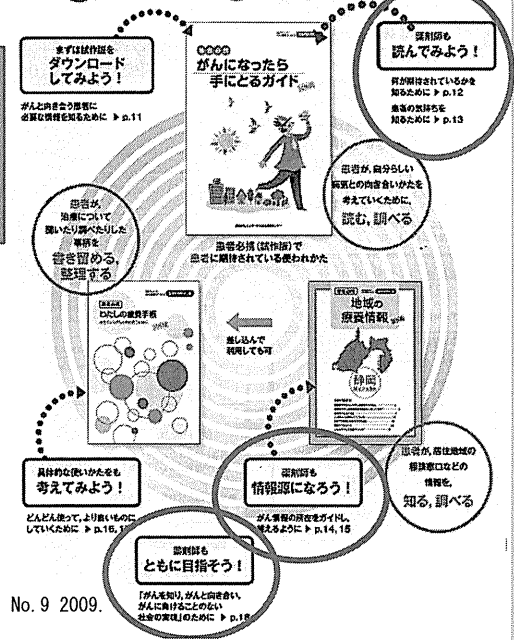
薬剤師による「患者必携」ならびに「地域の医療情報サポートブック」の有用性の評価と薬薬連携の推進

概念

患者必携は、
 ・がん患者や家族に寄り添い、
 ・ともに病気に向かい合い、
 ・適切な支援を展開するための、
 観点・情報共有のための情報ハブ

どう活かす? 『患者必携』

患者のアクション 薬剤師ができるアクション



PharmaTribune vol.1 No.9 2009.

テーマ: 外来化学療法と薬薬連携

県立広島病院がん医療従事者研修会

2011.7.12 県立広島病院大講堂



薬剤師 93人(うち院外82)
 医師 22人(うち院外1)
 看護師 10人(すべて院内)
 事務職等 10人(うち院外1)
 計 135人(うち院外84)

薬剤師の皆さまへ

「患者必携」アンケートのお願い

「患者必携」は患者さん・ご家族が がんの診療に必要な情報を収集し、整理し、あるいは わからないことをメモしたり、医療者に対話をするときに活用していただくように作成しているものです。お渡ししたのち、ご自宅で読んだり、書き留めたりするとき、あるいは、定期的に担当医の診察や、看護師・相談員へ面接や電話相談をされるときや、医療連携や療養介護での情報共有のツールとしてご活用いただくことを目指しています。この「患者必携」は、がんにかかった方の役に立つように全国的に普及できるか、検討段階です。アンケートは、さらに良い「患者必携」にする際の資料にさせていただきます。ご協力よろしくお願いいたします。

アンケート締切: 7月29日(金)までに、返信用封筒にて返送してください。

研究実施機関: 厚生労働科学研究費補助金 がん臨床研究事業

「地域におけるがん対策の推進と患者支援に資する介入モデルの作成に関する研究」

(研究代表者 渡邊 清高: 国立がん研究センターがん対策情報センター)

研究協力者: 篠崎 勝則(広島県立広島病院 臨床腫瘍科主任部長)

ご返送先 国立がん研究センターがん対策情報センター がん情報提供研究部 渡邊清高

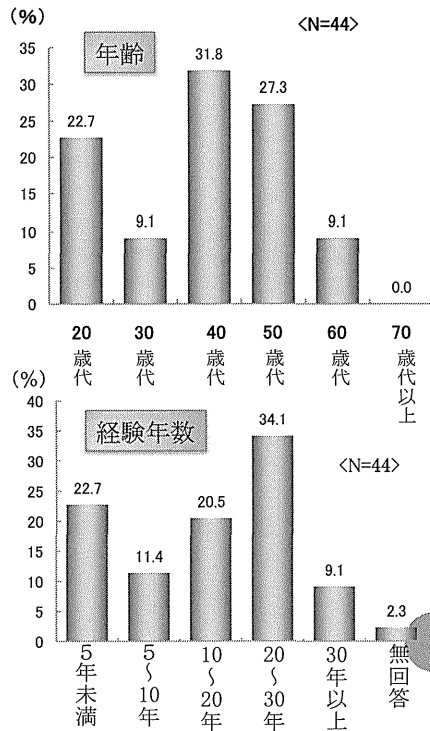
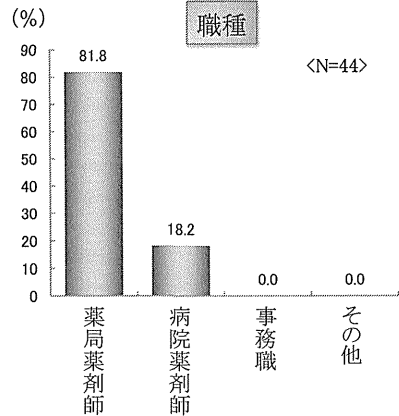
〒104-0045 東京都中央区築地 5-1-1

お問い合わせ先 広島県立広島病院 臨床腫瘍科主任部長 篠崎 勝則

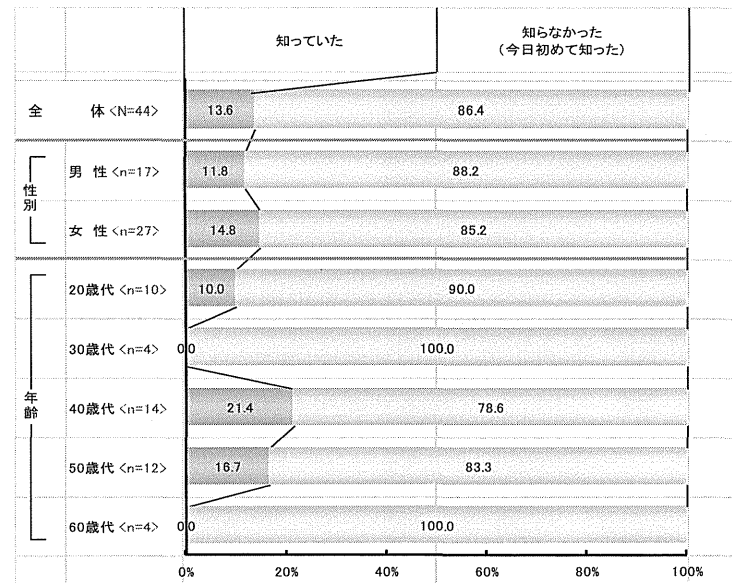
広島市南区宇品神田 1-5-54 TEL: 082-254-1818 (代表)

薬局での患者必携の普及、連携における活用についてお伺いします。主に、普段の業務との関わりを通しての視点からお答えください。

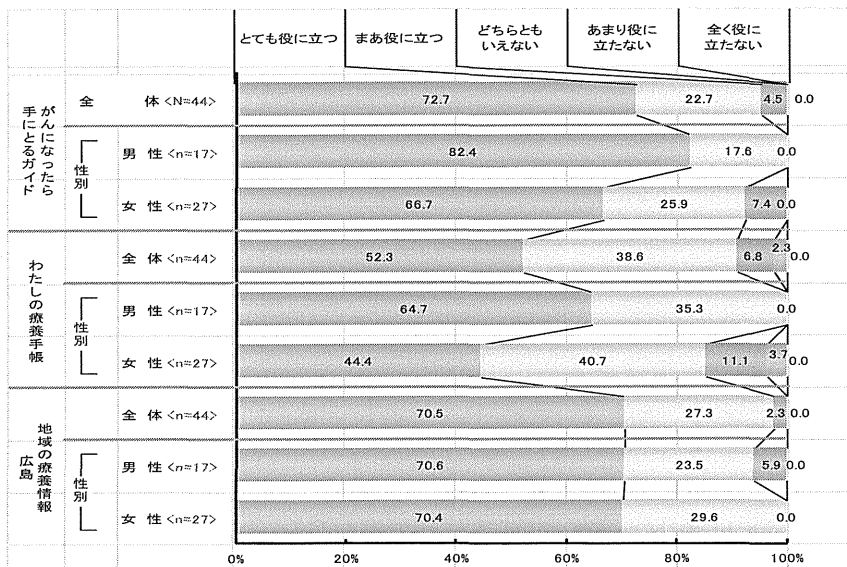
アンケートの背景



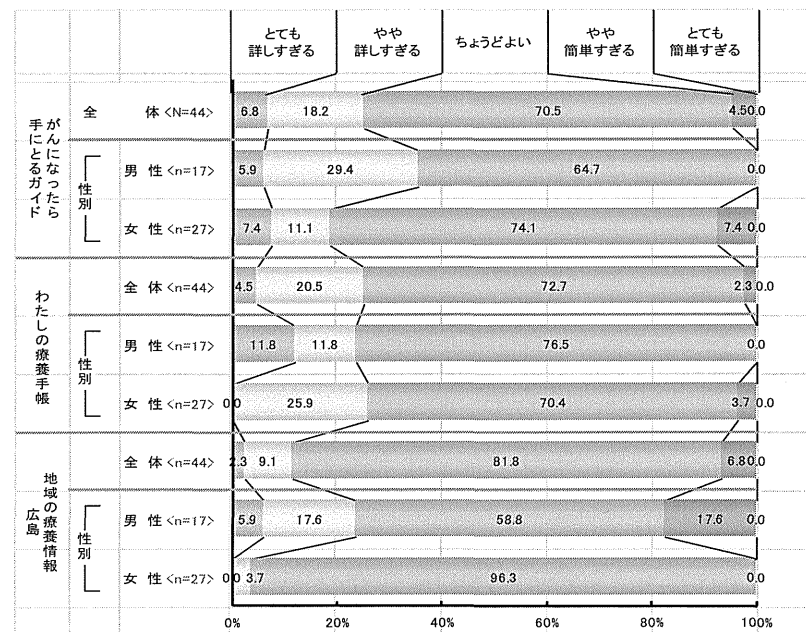
問6. 「患者必携」を知っていたか？



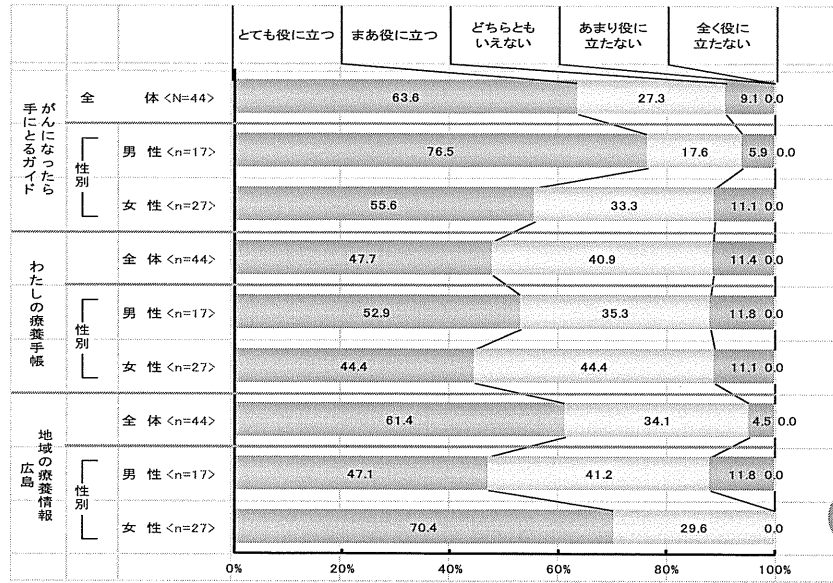
問7. 「患者必携」と「地域の療養情報 広島」は、患者と家族にとって役に立つと思うか



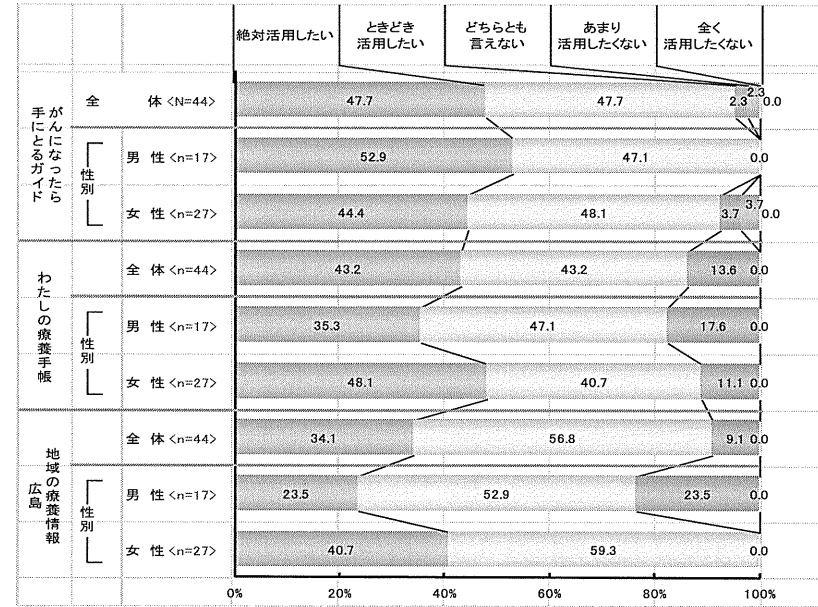
問8. それぞれに書かれている内容は詳しすぎるか



問9. 「患者必携」と「地域の療養情報 広島」は、医療・介護関係者にとって役に立つと思うか



問10. 患者や家族に、患者必携に含まれる情報について、服薬指導・説明のときに活用したいと思うか



問11-3. 現場での業務を通じて、薬剤師として活用すると思うところ (MA)

